

2017.01.24

—— シニアライフに関して気になる言葉 ——

(順不同、OB会の話提供として)

1. 「少にして学べば壮にして為すこと有り。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず。」・・・佐藤一斎：「言志四録」

2. 「神亀(しんき)寿(いのちなが)しと雖も、猶お竟(おわ)る時あり。騰蛇(とうだ)霧に乗ずるも、終に土灰(どかい)と為る。老驥(ろうき)櫪(れき)に伏すも、志千里に在り。烈士暮年、壮心已まず。」・・・曹操のうたった「歩出夏門行」の一節。

3. 「揺籃から柩に入るまでは 五十年に過ぎない そのときから死が始まる人は毫碌し 張りがなくなり だらしなくなり 粗野になる いまいましいが髪も抜け 歯も抜けて息がもれる 若い乙女を恍惚として 抱きしめるかわりに ゲーテの本を読むわけだ しかし臨終の前にもう一度 ひとりの乙女をつかまえたい 眼の澄んだ 縮れた巻き毛の娘を その娘を手にとって 口に胸に頬に口づけし スカートを パンティーを脱がせる そのあとは 神の名において 死よ 私を連れて行け アーメン」

・・・ヘッセ：「人は成熟するにつれて若くなる」

4. 「たとえ年をとって老人になっても、自分の生き方を見出せる人は幸いである」
・・・フォルケ・ヘンシェン

5. 「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。」
・・・サミュエル・ウルマン

6. 「子曰く、吾 十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず。」
・・・孔子

7. 「志を立てるのに、老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ず開けるのである」
・・・松下幸之助

8. 「二十歳であろうが八十歳であろうが、学ぶことをやめた者は老人である。学び続ける者はいつまでも若い。人生で一番大切なことは、若い精神を持ち続けることだ」
・・・ヘンリーフォード

9. 「老年は山登りに似ている。登れば登るほど息切れするが、視野はますます広くなる」
・・・イングマール・ベイルマン

10. 「夕映えが美しいように、老人の場所から見た世界は美しいのです」
・・・伊藤整

11. 「私はその人柄の中に老人的なものを幾らか持っている青年を好ましく思う。同じように青年的なものを幾らか持っている老人を好ましく思う。このような人柄の人間は体が年をとっても心が老いることは決してない」
・・・キケロ

12. 「私は、過去というものは、前向きのためのものでない限り、嫌いである。「青年は明日を思い、老人は過去を憶（おも）う」とするなれば、私も青年のつもりである」
・・・松永安左エ門

13. 「老後一日楽しまずして、虚しく過ごすは惜しむべし。老後の一日、千金にあたるべし。」
・・・貝原益軒

———— 番外編 ————

1. 「知って行わざるは、知らざるに同じ。」・・・貝原益軒

2. 「朝あしたに道みちを聞きかば、夕ゆうべに死しすとも可かなり」
・・・『論語』里仁 8

3. 「人の己を知らざるを憂えず、人を知らざるを憂うなり」
・・・論語

4. 「生きがい感は幸福感の一種で、しかもその一ばん大きなものともいえる」
・・・神谷美恵子

5. 「生きがいということばは、日本語だけにあるらしい。こういうことばがあるということは、日本人の心の生活のなかで、生きる目的や意味や価値が、問題にされて来たことを示すものであろう。たとえそれが深い反省や、思索をこめて用いられて来たのではないにせよ、日本人がただ漫然と、生の流れに流されて来たのではないことが、うかがえる」 …… 神谷美恵子

6. 「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり」
…… 吉田松陰

7. 「かくすれば かくなるものと知りながら やむにやまれぬ大和魂」
…… 吉田松陰

8. 「身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留置まし大和魂」
「親思ふ 心にまさる 親心 けふのおとずれ 何ときくらん」
…… 吉田松陰

9. 「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」
…… 松尾芭蕉

10. 「願わくは花の下にて春死なむ そのきさらぎの望月のころ」
…… 西行

11. 「おまえが何かを望む時には、宇宙全体が協力して、それを実現するために助けてくれるのだよ」 …… パウロ=コエーリョ:「アルケミスト」

12. 「わが愛する友よ、われわれが死ぬときには、われわれが生まれたときより世の中を少しなりともよくして往こうではないか。」 …… ハーシェル

13. 「何人にも遺し得る最大遺物——それは高尚なる生涯である」
…… 内村鑑三

14. 「自ら楽しみ、人を楽しませてこそ、人として生まれた甲斐がある。」
…… 貝原益軒

(※以上、気に入った言葉を教えてください。また、他の言葉を教えてください。木寺)